

私は小樽市で生まれ、父親の転勤の都合により札幌・函館・釧路に居住し、岩手大学工学部にて土木工学を専攻しましたが、発注者側よりも実際に計画・設計を行うコンサルタント側の方に魅力を感じ、この業界に就職しました。就職後は主に道路構造物に携わりながら、途中高速道路工事の施工管理員として出向し、現場での施工方法等を間近に見ることで、色々勉強させて頂きました。

技術士試験は鋼コン部門で一度受験し残念な結果に終わりましたが「仕事の内容的に道路部門で受けてはどうか」との助言を頂き、道路部門で二度目の受験に臨み、筆記試験に合格しました。□頭試験前は社内模擬面接等の指導を受け、いざ東京に向かったのですが、飛行機内で「羽田空港が雪で最悪引き返すことも…」とのアナウンスを聴き、目の前が真っ暗になりました。何とか着陸し、翌日の朝一で面接を受けたのですが、試験官への挨拶時に前日の話をしたところクスッと笑ったため「これは行ける!」という妙な自信に繋がり、終始リラックスした状態で対応出来たことが、合格に結びついたと思います。

技術士になってから感じたことは、それまでと違い発注者側も技術士としての見解として捉えられるため、資料作成一つ取ってもストーリーや言葉を選びながら、分かりやすかつ的確に説明を行うということが、技術士試験の論文作成・□頭試験にも通じるかと思います。

道路構造物をはじめとした土木構造物は、新規構築からメンテナンスの時代へと確実に変化しておりますが、今後も専門知識を高めるだけではなく、客先のニーズに応じた的確な対応が出来る技術者により近づけるよう、日々努力していきたいと思います。

小野 英樹 (おの ひでき)

●建設部門(道路)

勤務先

サンコーコンサルタント株式会社
札幌支店



→次号は、佐々木 悟さん(応用理学部門)

私は、1967年(昭和42年)に釧路市に生まれ、高校卒業まで過ごしました。その後、神奈川県横須賀市にある学校に進んだのですが、暑さなどに耐えられず、5ヶ月ほどで北海道に帰ってきました。札幌で半年ほど予備校に通い、翌年、札幌の大学に入学しました。大学では理学部の化学で液晶の研究を行い、大学院修士課程を修了しました。

高校、大学では写真部に所属し、鉄道旅行などで写真を撮っていましたが、今ではフィルムカメラはすっかり廃れてしまい、寂しい限りです。

その後、札幌で技術職として騒音振動を1年、食品分析を延べ10年、水質分析を2年ほど勤め、2005年(平成17年)10月に釧路に帰ってきました。現在の会社に入り主に水質検査を行っておりますが、やはり資格が必要ということで、危険物(甲種)、環境計量士(濃度、その後騒音・振動)を取得し、化学出身でもあり、技術士も一次試験は2006年(平成18年)化学部門で合格しました。二次試験は、食品分析が長かったこともあり、専門に食品化学のある農業部門-農芸化学で受験しました。筆記試験がなかなか難しく、3年かかって筆記試験に合格しました。□頭試験では、私はその日の最後で、それまでの受験生が早く終わっていたためか予定より早く始まり、筆記試験のダメ出しや体験論文の厳しい突っ込みなどがありました。最後に義務、責務を言い終えて、時間的には結構早く終わりました。そして2010年(平成22年)3月に合格し、技術士として登録しました。一次は化学、二次は農業-農芸化学と、少数派だったため、資料も少なく、受験勉強には苦労しました。

今後は、建設、環境部門も視野に、業務、経験とも積んでいきたいと思っています。

久保下 誠 (くぼした まこと)

●農業部門(農芸化学)

勤務先

環境コンサルタント株式会社



→次号は、上杉 充さん(建設部門)